

立地条件、各種条件の変化による必要時間の増減傾向をみると共に、作目と地域の立地条件、家族構成、学歴、所得水準、家具の所有状況など各種条件の変化による必要時間の増減傾向をみるとともに、作目と規模などに影響をうける勤労生活時間との調整方法を考え、全体を通じて利用方法の軽減方策を考えた。

3. 主婦労働の軽減を生活時間別にみると、勤労生活時間と消費生活時間中では、家事作業時間・社会文化時間の活用に問題があるが、その対策としては機械化と省力技術の導入が重要となる。またその実行は、主婦の自覚のもとに家族員の協力が必須条件である。

F— 1 兼業農家主婦労働の合理的利用方法の検討

岐阜大教育 堀田 剛吉

1. 高度経済成長などのひずみをうけ、兼業農家の主婦労働はますます過重となってきたが、家事労働の重要性を考え、農業労働との合理的な調整により、主婦の労働を有効に利用する方向を解明する。

2. まず合理的な時間の利用とは、目的にそい無駄が少ないこと、使用時間にバランスがとれていることが必要であり、作業によって生みだす効用と苦痛とがひとしくなるまで投下せねばならない。具体的方法では、主婦の家事労働の性格を検討し、その価値をみとめ、地域の